

各 位

会 社 名 株式会社トラスト・テック  
 代表者名 代表取締役社長 小川毅彦  
 (JASDAQ・コード 2154)  
 問合せ先 取締役管理本部長 鈴木憲一  
 電話番号 03-5777-7727

平成 22 年 6 月期業績予想の修正、期末配当  
 予想の修正（実質増配）に関するお知らせ

平成 21 年 8 月 10 日付け当社「平成 21 年 6 月期決算短信」において発表いたしました平成 22 年 6 月期(平成 21 年 7 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日)の業績予想及び期末配当予想について、下記のとおり修正することを本日開催の取締役会で決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 6 月期（平成 21 年 7 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日）連結業績予想数字の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想(A)	12,813	353	614	402	21,148 円 99 銭
今回修正(B)	11,260	280	370	280	14,730 円 63 銭
増減額(B-A)	△1,553	△73	△244	△122	—
増減率	△12.1%	△20.7%	△39.7%	△30.3%	—
(ご参考) 前期実績	11,015	175	254	80	4,218 円 36 銭

平成 22 年 6 月期業績予想の修正理由

当社グループの業績は、第 3 四半期末までは売上高が計画値を若干下回りつつも利益水準はほぼ予定通りに推移してまいりました。しかしながら、第 4 四半期において顧客企業の新年度予算を契機に受注を取り込むことを前提として見込んでいた売上の拡大幅が、以下のような要因により当初予想を下回る見込みとなりました。またこれに伴い、各利益についても当初予想を下回る見込みとなりました。

(技術者派遣・請負・委託事業)

金融危機後、契約期間の短縮化が進んでおり、第4四半期において一部顧客における契約終了が当初想定より多く発生いたしました。この影響により技術社員の増加は当初予想より限定的となり、売上高の伸びが当初計画より減少する見込みとなりました。

(製造請負・受託・派遣事業)

顧客企業の急激な減産により特に神奈川エリアの製造派遣・請負等の取引の減少を、子会社T T Mの請負・受託の伸長でカバーしておりましたが、第4四半期になって当初予想との乖離が大きくなり、当初計画より減少する見込みとなりました。

このため、平成22年6月期(平成21年7月1日～平成22年6月30日)連結業績は、売上高11,260百万円(前年比2.2%増)、営業利益280百万円(前年比60.0%増)、経常利益370百万円(前年比45.7%増)、当期純利益280百万円(前年比250.0%増)となる見込みです。

2. 平成22年6月期(平成21年7月1日～平成22年6月30日)期末配当予想の修正

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	年 間
前回予想 (平成21年8月10日発表)	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 8,000.00	円 銭 8,000.00
今回修正予想	—	0.00	—	10,000.00	10,000.00
当期実績	—	0.00	—		
前期(平成21年6月期)実績	—	0.00	—	0.00	0.00

※ 修正予想の1株当たり配当金10,000円は、普通配当6,000円 記念配当4,000円となります。

当社は、連結当期純利益に対して配当性向30%～40%を目安として安定的な株主還元を実施する方針としております。本方針に則り、今般の業績予想の修正を踏まえて配当金の検討を行い、平成22年6月期の1株当たり配当金(普通配当)の予想を6,000円へ修正させていただきたく存じます。

なお、業績は計画値に対して未達成となりますが、前年度対比では増収増益を果たす見込みであり、当事業年度の第2四半期以降では四半期毎に人員を増加し業績は着実に向上しております。この基調は次期においても維持できるものと考えております。

当期は厳しい経営環境でございましたが、上述のように短期間で業績の回復を果たすことができました。これもひとえに日頃よりご支援を頂戴しております株主の皆様のおかげであり、今般の配当は当社にとって念願の初配当であることも鑑み株主の皆様への感謝の意を込めまして、普通配当に加えまして1株当たり4,000円の記念配当を決定いたしました。

これにより、平成22年6月期の1株当たり期末配当金予想を10,000円に修正いたします。

次期の配当予想につきましては、平成22年6月期決算短信(平成22年8月予定)で発表いた

しますが、引き続き 30%～40%の配当性向とし、業績の向上を通じて安定的な株主還元をする方針であります。

※ 業績予想数値等について

本資料に記載されている業績予想等に関する内容は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因にかかわる本資料発表日現在における仮定を前提としており、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

以 上